

# 天国のおじいちゃん見えますか

浅田 愛和

「おじいちゃん、私のランドセルすがた、すてきでしょう。」

「毎日、お空から、見ててくれますか。」

「大切に、大切に、使ってるよ。」

私の大好きなおじいちゃんは、ようち園生の時に、お空に行きました。

最後のころは、いたみをおさえるために、強いお薬を使うので、意識がなくなってしまう日もありました。

そんな時、

「愛和よ。ランドセル、じいちゃんが、買ってやつかんな。」

と、いつものおじいちゃんにもどり、会話が出来ただけでも、うれしいのに、私のランドセルのことまで、心配してくれて、なみだを流して、

「ありがとう、大きいじいちゃん。」

と、だき合った事は、今でも、しっかりと、覚えていきます。

七月でしたが、すぐに、ランドセルを買いに行きました。

大きいじいちゃんと私の好きな、きみどり色(草色)のランドセルが、目に入り、迷わず、その色に決めました。

買ったのを、伝えると、おじいちゃんは、

「よがった。それは、よがったな。」

「じいちゃん、学校行くまでには、家に帰っからな。」

と、言ってくれ、指切りげんまんをしました。

でも、その日の境に、話も出来なくなってしまう、八月に、お空へと行きました。

本当なら、ランドセルをせおったすがたで

「ありがとう、大きいじいちゃん。」

「とつても、にあうでしょう。」

「二人の好きな、草色だよ。」

と、毎日、毎日、見せたかったです。見てほしかったです。

今でも、ランドセルから出てくる賞状、通知表は、大きいじいちゃんの仏だんが、一番最初です。

「天国の大きいじいちゃん、見えますか？聞こえますか？」

「私は、本当に幸せだよ。」

もう一度、大きい声で言うよ。

「ありがとう。大きいじいちゃん。」

六年生の卒業まで、大切に使用したいと思います。

私も、大きいじいちゃんのような、人の気持ちが分かる、思いやりの心を忘れない人になりたいです。